

項目	内容	評価				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
	(10) 保護者の生活形態を反映した子どもの在園時間の長短、入園時期や登園日数の違いを踏まえ、子ども一人一人の状況に応じた工夫が行われているか		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮が必要な子どもは発達支援センターエヴリー、小松こども医療福祉センター、和光学園等専門機関と連携を図り、助言を受け個別的な指導を進めてきた。園でも専門機関で行っている支援方法を取り入れられるよう、子が安心して過ごせる場としてクールダウンスペースの空間作り等の環境をさらに整えていきたい。</li> <li>・向本折小学校との連携において、今年度は運動会での年長児の姿を校長先生に見に来ていただいたり年度末には、担当教員と書面、電話などで情報共有を行った。行事等特別な時以外でも小学校との垣根を超え、様々な意見交換の場があると良いと思う。</li> </ul>
	(11) 障がいのある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、教育保育の内容や方法に配慮されているか		○			
	(12) 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、教育保育の内容や方法、保護者とのかかわりに配慮されているか		○			
保護者に対する支援	(1) 子どもの発達や教育保育などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通の理解を得るための機会を設けているか		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はコロナ禍での予防対策を講じながら保育参観、保育参加、クラス懇談（年中、年長児）、個人懇談（年長児2度）を全年齢1～2度開催することができ、特にクラス懇談会での反響は大きく、保護者同士の話し合いが喜ばれた。子育ての悩みを打ち明けられる場所や仲間との出会いの機会となるため今後も園が体制づくりを行っていくことが大切である。</li> <li>・メール配信システムからキッズビューアプリに変更しメール配信の充実を図っていく。</li> <li>・子育て支援室ほけっとサンは利用者同士が交流し子育ての悩みを話し合ったり、ほっと息抜きできる場所として利用者も増えてきている。（コロナ禍前にもどりつつある）「相談・援助」で訪れる方はほけっとさん時間後に個別の機会を作っている。</li> </ul>
	(2) 虐待に対応できる園内の体制（医療機関、児童相談所など専門機関との連携）の下、不適切な療育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び予防に努めているか		○			
	(3) 地域の子育ての拠点として「こども園の開放」「相談・援助」「交流の場の提供」「情報の提供」の支援を行うよう努めているか	○				
教育保育を支える組織的基盤	(1) 感染症やその他の疾病の発生予防に努め、看護師の専門性を活かした対応を図っているか	○				<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々、看護師による各クラスでの子の健康状態の聞き取りや相談が行われているため、安心して保育ができる体制となっている。職員の健康状況、体調不良についてのサポートもあり、とても心強い。アレルギー児の対応でヒューマンエラーがあってはいけないので声出しチェック機能の強化をこれからもしっかりと行う。</li> <li>・防犯、防災について策定されるBCP（事業継続計画）を整え、職員で話し合いを持ち組織での役割、体制づくりを行っていく。また毎月の避難訓練を職員会で振り返り課題解決、情報共有、災害の知識、防災対策への意識の強化を目指したい。防災マニュアルの再確認も必要である。保護者、保護者会、町内会との連携を進め、次年度は引き渡し訓練を実施する予定である。</li> <li>・月ごとのテーマ保育についての職員全体での共通理解が十分ではなかった。R6年度の研究発表に向けて全体で共有する事項は、職員会、チーフ会で毎回議題として挙げ進捗状況を確認しながら研究の内容をみんなで深めていきたい。</li> <li>・事業計画について、今年度も「HP掲載」のみでは周知の徹底ができなかった。事業計画は、計画作成のみにとどまらず職員会等で話題に上げ、全職員が十分理解し取り組む必要を感じた。</li> <li>・苦情解決について、保護者には十分伝わらなかった。次年度は重要事項説明書を在園児に配布し、内容の変更箇所をしっかりと伝える必要がある。例えば年度初めの保護者会、クラス懇談会、園だより、HPで第3者委員について等をお知らせする。</li> <li>・0歳児のクラス移行の際、保護者に新クラスの職員の紹介が十分でなく、もう少し時間をかけ丁寧な対応をとるべきだった。</li> <li>・昨年度の評価結果に基づき、改善策を挙げ実施しているとはいえないといった職員からの評価があった。PDCAサイクル（計画→実行→評価→改善）が回るよう、組織として取り組むべき課題を一度明確化し1年の保育計画に生かしていくことを確認した。</li> </ul>
	(2) 体調不良、アレルギー疾患等をもつ子どもに対し、適切な対応が行われているか	○				
	(3) 避難訓練・安全点検・不審者侵入防止訓練等、子どもの安全確保のための適切な対応が行われているか	○				
	(4) 地震などの自然災害に対する防災対策は行われているか		○			
	(5) 施設長がリーダーシップを発揮し、職員が教育保育の内容の充実と質の向上を図れるよう努めているか	○				
	(6) 研修等、教育保育の質の向上を図るべく、自己研鑽への取り組みを積極的に行っているか	○				
	(7) 事業計画が職員に周知されているか		○			
	(8) 事業計画が利用者に周知されているか		○			
	(9) 守秘義務の遵守が全職員に周知され、守られているか	○				
	(10) 個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情に対し、早期解決を図るよう努めているか	○				
	(11) 苦情解決の仕組みが確立され、保護者等に十分に周知・機能しているか		○			
	(12) 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備しているか		○			
	(13) 保育教諭等が主体的に自己評価に取り組み、教育保育の改善が図られているか		○			
	(14) 個人の評価結果に基づき、組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施しているか		○			

施設関係者評価

